AKAYA PROJECT MINAKAMI

「赤谷の森・基本構想2025」の概要

～生物多様性と社会の持続性のために、森林のあるべき姿をとりもどす～

「赤谷の森・基本構想」は、赤谷プロジェクトが取り組む森づくりの基本的な考え方をとりまとめたものです。2025年2月に改定した「赤谷の森・基本構想2025」の概要をお知らせします！

イヌワシ

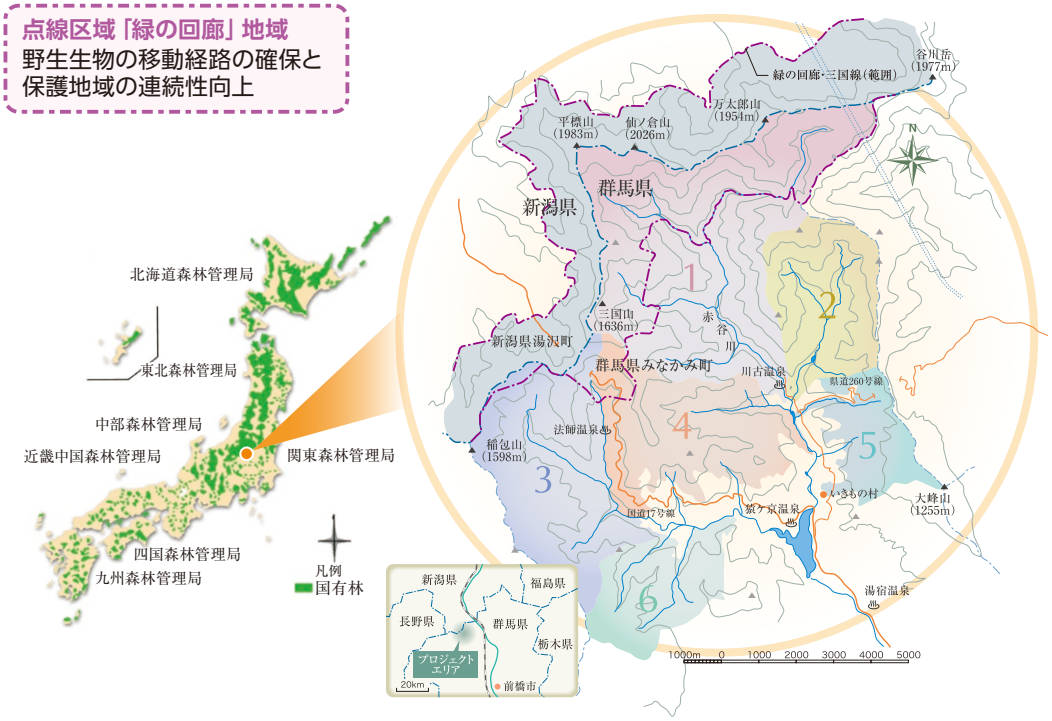
クマタカ

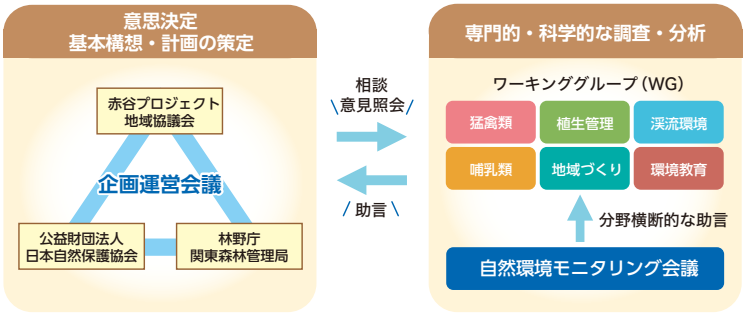
ニホンジカ

赤谷プロジェクトとは…

エリア1・赤谷源流エリア	巨木の自然林の復元とイヌワシ営巣環境保全
エリア2・小出俣エリア	植生管理と環境教育のための研究・教材開発と実践
エリア3・法師沢・ムタコ沢エリア	水源の森の機能回復
エリア4・旧三国街道エリア	旧街道を理想的な自然観察路とするための森づくりと茂倉沢での渓流環境復元
エリア5・仏岩エリア	伝統的な木の文化と生活にかかわる森林利用の研究と技術継承
エリア6・合瀬谷エリア	実験的な、新時代の人工林管理の研究と実践

点線区域「緑の回廊」地域
野生生物の移動経路の確保と保護地域の連続性向上





◀赤谷プロジェクト組織運営図

過去の取組については、赤谷プロジェクト20周年記念成果集をご参照下さい。

「赤谷の森・基本構想」（以下、「基本構想」という。）は、三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画（以下、「赤谷プロジェクト」という。）の基本的な考え方をとりまとめたものです。

赤谷プロジェクトは、「生物多様性の復元」と「持続的な地域づくり」を実現するため、群馬県利根郡みなかみ町新治地区の国有林を中心とした約1万ha（以下、「赤谷の森」という。）を将来にわたってどのような森林にしていくのかを検討し、人と自然との新たな望ましい関係づくりと共生の姿を構築するための取組です。

2010年度に多くの地域関係者と意見交換をしながら策定された初めての「基本構想」は、「赤谷の森」を含む利根上流森林計画区の国有林の取扱いを定める新たな地域管理経営計画等に反映されました。以降、赤谷プロジェクトでは、5年ごとに「基本構想」の改定を行っています。

2023年11月、赤谷プロジェクトは発足から20周年をむかえ、2024年3月に20年間の成果と今後の課題や方向性を取りまとめた「赤谷プロジェクト20周年記念成果集」を作成するとともに、過去のモニタリング結果等の資料を可能な限り赤谷森林ふれあい推進センターのホームページで公開しました。

2024年度は、20年間の成果と課題を踏まえて、「赤谷の森・基本構想2025」として改定しました。

この基本構想を踏まえて、2025年度中に関東森林管理局が次期地域管理経営計画等を策定し、赤谷プロジェクトのワーキンググループ等は2025年度以降の取組を実施します。

赤谷の森の取組について

「赤谷の森」は、多様な自然環境を形成し、猛禽類をはじめとする様々な野生動物の生息の場となっている一方で、薪炭材や木材の生産など人々に利用され、地域住民の生活と密接に関わってきた森林も存在しています。これらのことを踏まえて、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを通じて、新たな共生の姿の構築という目的を達成するために、次のような内容に取り組んでいきます。

南ヶ谷伐採試験地の調査

生物多様性の高い森林への誘導

「赤谷の森」では、生物多様性保全の観点から、気象・地形・地質等の自然的条件により本来生育していたと考えられる多様な樹種・年齢の樹木や下層植生からなり、その環境に適した動物が本来の生息状態を維持できる森林（潜在自然植生）に復元させることを目標としています。

これまでの取組において、広葉樹の保残や、伐採の幅や方位など、配慮すべき点が明らかになってきました。次期地域管理経営計画等の策定段階において、林分内容の精査を行いつつ、自然林への誘導に向けた施業箇所の増加を目指すこととします。また、採算性の低い人工林の施業推進や赤谷の森の利用促進の観点から多様な事業者の参入を想定した小面積の立木販売などにも取り組むこととします。

生物多様性保全と資源の循環的な利用との両立

資源の有効利用の観点から、人工林を自然林へと誘導していく際、木材の資源としての利用を進めていきます。

現在、プロジェクトで進めているイヌワシ狩場創出試験やクマタカの生息環境保全と両立する人工林管理などのように、生物多様性の保全・復元と資源の循環的な利用との両立を図っていくための知見を確立していきます。さらに、地域の特産物であるカスタネット製造などのニーズに対し、生物多様性の保全に配慮しつつ、広葉樹を含む地域内での木材資源の循環的利用を推進していきます。

赤谷の森に生息するイヌワシ

第４次イヌワシ狩場試験地

水源かん養機能の向上

利根川の上流に位置し、赤谷川の集水域となっている「赤谷の森」は、新治地区のかけがえのない水源であるとともに、首都圏の水源林として重要な役割を担っており、水源かん養機能の向上を目指した森林管理を実施していきます。

森林文化・景観を構成する場としての価値の共有

地域社会の絆や住民の精神性を支える存在としての森林の価値を向上させていくとともに、地元の方々、特に子どもたちに「赤谷の森」の魅力を伝え愛着と誇りを持って貰えるようなプログラムを提供していきます。また、歴史的な歩道を有する旧三国街道エリアや、科学的なデータの多い小出俣エリアなどでは、教材や観光・レクリエーション資源としての期待に応え、森林と人とのふれあいを充実させていきます。

小出俣エリアを利用した環境教育

野生動物との共存とニホンジカの低密度管理

ニホンジカの個体数増加に伴う樹木や下層植生の衰退等は、水源かん養機能を始めとする森林の有する公益的機能の発揮に影響を与える恐れもあることから、ニホンジカの低密度管理を進めていきます。

また、既に低密度とは言えないほどに生息密度が増加しているとの評価を踏まえ、「赤谷の森」における多様な植生へのニホンジカの影響を軽減し、天然更新や人工林管理への悪影響が生じず、脆弱な生態系が維持されるよう、個体群管理のための捕獲を推進していきます。

捕獲にあたっては、地域の方々、町や県と連携しながら、人工林の伐採地において効果的な捕獲手法を検討するなど、森林管理とニホンジカ管理が一体となった取組を目指します。

ニホンカモシカ

ニホンジカ

渓流環境の復元と生物多様性のあり方

２００４年から茂倉沢で実施した取組では、防災機能を維持しつつ渓流生態系を一定程度回復するなど、防災機能と渓流生態系保全の両立に向けた治山の実例をつくることができました。今後、これまでにない規模の出水があった場合には、その影響を調査するとともに、治山事業の必要が生じた際は渓流環境をより良い状態に復元する目的も合わせて検討します。

中央部の撤去工事を実施した茂倉沢のダム

科学的なモニタリングと順応的管理

森林生態系の管理は、モニタリングの結果から得られた実施事業の効果や自然環境・社会環境に与える影響、両環境についての新たな知見等を専門家が評価・検証し、評価結果を管理経営に責任を持つ主体が判断し、計画期間内であっても評価結果や新たに得られた知見に基づいて、計画の中止・変更・修正を行って事業を実施するといったように柔軟に対応することが必要です。

引き続き、各取組における科学的根拠を重視し、新たなモニタリング手法も積極的に取り入れながら、科学的なモニタリングと順応的管理を推進していきます。

周辺地域と一体となった生態系管理

教育・観光・レクリエーション資源としての向上や野生動物との共存等については、隣接する民有林との連携した管理が求められます。みなかみユネスコエコパークや、みなかみネイチャーポジティブプロジェクトとの連携、地域の様々なセクターとの協議や意向把握を行い、周辺地域と一体となった生態系管理を進めます。

三国山のニッコウキスゲ

赤谷の森自然散策（冬）

赤谷の森自然散策（夏）

持続的な地域づくりの推進

赤谷プロジェクトの理念に沿った形での様々な試みによって地域づくりの展開に参画していきます。具体的には、環境教育活動の推進、遊休農地の利活用やイヌワシの狩場創出等を付加価値とした木材の利活用、ガイド業による自然林復元試験地等のフィールド利活用など地域の魅力を高め、持続的な社会経済活動の振興に貢献します。

イヌワシの狩場試験地から伐採された木材が利活用されています！

イヌワシストアで使用されている机

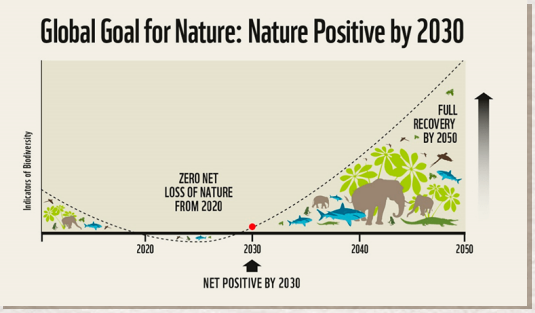
新宿駅に展示されたスタンディングテーブル

モデル地域にふさわしい森林生態系の体系的な管理技術の集積と成果発信

２０２２年12月に採択された生物多様性に関する世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」において、「ネイチャーポジティブ」や、それを実現する手法として「ＮｂＳ（自然を活用した解決策）」が掲げられています。これらは、赤谷プロジェクトが、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを目指して実践してきた方向性そのものと言えます。

２０２４年度、赤谷プロジェクトの20年に渡る科学的知見と取組の成果を「20周年記念成果集」として公開したことを踏まえ、これらの資料と、「ネイチャーポジティブ」や「ＮｂＳ」等の国際的な潮流を活用しながら、積極的に発信を行います。

ネイチャーポジティブとは、
人と地球のために、
生物多様性の損失に歯止めをかけ、
自然を回復させること！



この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会
TEL 0278-25-8777
※『森のおもちゃの家』内
理事　本多　結
メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp

（公財）日本自然保護協会【NACS-J】
TEL 03-3553-4101
プロジェクト担当　森本　裕希子
メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター
TEL 0278-60-1272
所長　栗田　喜則
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp